

12 歯科衛生士学科学生におけるスマートフォン利用方法と依存状況

木口友美

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 歯科衛生士学科, スマートフォン, 依存

はじめに

現代生活の必需品となっているスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスの普及は、年齢を問わず年々増加している。スマートデバイスの普及によりスマートフォン依存症やインターネット依存症も急増しており、今後もさらに増えていくだろう。

そこで今回は、歯科衛生士学科学生スマートフォンの使用状況と依存の程度について調査を行った。

対象および方法

本学歯科衛生士学科1年生54名、2年生42名、3年生36名の計132名を対象とした。

方法は、平成29年11月にスマートフォン使用状況について一部自記式多項目選択式質問紙法を行った。内容は、使用携帯電話の機種、携帯電話使用時間、利用内容などである。また、スマートフォン自己評価スケールとして和歌山スマートフォン尺度(Wakayama Smartphone Dependence Scale: WSDS)を使用し、スマートフォンの依存程度を計測した。

結果および考察

質問紙の未完全回答を除いた128名を調査対象とした。現在使用している携帯電話では、iPhone使用者が1年生94.0%、2年生76.2%、3年生94.4%となり、Android使用者が1年生6.0%、2年生23.8%、3年生5.6%であった。また、フィーチャーフォンを使用している者はいなかった。通話やメール機能のみを使用する場合は、従来のフィーチャーフォンで問題はなかったが、スマートフォンでは画面に直接触れることで操作が可能になり、パソコンに劣らず、インターネット検索やアプリケーション等が使用可能となり、便利で使いやすく、持ち運びの容易なスマートフォンを使用していると思われる。1日の使用時

間では1・3年生では4時間以上5時間未満が最も多く、2年生では3時間以上4時間未満が最も多くなった。また、1日中使用していると回答した学生もいた。スマートフォンの利用内容では、1年生ではLINEが100%と最も多かった。次いで調べもの・情報収集と電話(無料通話含む)がそれぞれ94%であった。2学年で最も多かったのはLINEで100%、調べもの・情報収集が95.2%、写真撮影が92.9%と続いた。また、3年生ではLINEが100%と最も多く、電話(無料通話含む)が91.7%、写真撮影が88.9%となった。全学年においてLINEの使用率が100%であり、これは、メールの代わりとして近年使用されているメッセージアプリである。同画面上にメッセージ内容や既読の有無が表示されることや、スタンプの充実によりに普及していると考えられる。また、全学年においてスマートフォンに依存しているが23.3%、やや依存しているが52.7%と76.0%の学生がスマートフォン依存であると自覚していた。WSDS得点と標準偏差は1年生で 26.4 ± 7.5 点、2年生で 23.4 ± 9.1 点、3年生で 28.5 ± 8.7 点となった。

現在は、アクティブラーニングの一環としてデジタル教材を使用しているが、スマートフォンの使用時間が長いことやスマートフォン依存を自覚している学生も多いことから、デジタル教材の使用方法も考えていく必要がある。また今後は、スマートフォンだけではなく、インターネットの利用状況や依存の程度についても調査を行っていききたい。

まとめ

各学年において、iPhone使用者が大半を占めており、フィーチャーフォンを使用している学生はいなかった。スマートフォン利用内容では、全学生がLINEアプリケーションを使用していた。全学生の約7割はスマートフォンに依存していると自覚していた。